

もっと知りたい  
ふるさと

44

葛尾城の「陰の松」  
葛尾山麓に暮らして

磯部地区の東南、坂城町との境に聳える葛尾山は、朝夕なに親しみをもつて仰ぎ見る山であります。山頂にはかつて村上氏の居城であった葛尾城がありました。葛尾城跡は、昭和49年に長野県の史跡に指定されました。

磯部地籍の登山道からの見学者も増えており、地元「磯互会」「陰の松保存会」の登山道整備や草刈作業は一段と重きを置く活動となっております。かつて葛尾城への兵糧米の運搬路であったとされる登山道沿いには、米入口・矢の手・乙女の泣坂・石打古場・「陰の松」盗人窪など葛尾城に関係ある場所が点在しています。その中の「陰の松」は、葛尾城が築城される際、本郭から見て裏手となる矢首平に見張場を造り、名木の松が植えられて、要塞の一部となつたと



平成 13 年当時の「陰の松」

されています。

また、対する南西方向に当たる支城姫城に程近い苜屋原地籍の灯の松も城の要塞の一部とされて名木の松でありましたが、昭和34年の台風15号の被害で倒木となつてしまい惜しまれます。

陰の松の地籍は、山腹の平坦部にあつて、1596平方メートル(483坪)程の広さがあり、現在そこには赤松の若木が育ち、「史跡陰の松」の記念碑が建立されています。また、案内板・休憩小屋・丸太ベンチが置かれ登山者の憩いの広場になつています。

明治末頃から大正初め頃の周辺は桑畑が広がり、5、6本の松陰が桑摘みの人達の休憩や昼食に利用されました。また磯部の里からは景色のよい松が眺望されてきました。里で拝む 初日の照りや影の松(清水)

日の光り 風の光りや 影の松(熊月)

時の句が示すように、生き生きとした輝くばかりの陰の松が目に見えます。

陰の松のあたりを地元で



葛尾陰の松案内図

「野山」と呼んだ時代は、養蚕だ、食糧増産だ、の頃で、子供たちまで山仕事を手伝い、「野山」は、農耕地となり、磯部地域の人々に食の恩恵を与えました。

戦後ともなると若い世代の人達が工場・会社勤務に変わり、山の農地も山林となつて、陰の松周辺は成長の早い落葉松が植わり、伸び盛りの樹木に囲まれるようになると、陰の松にかげりが見え始め、2本の松が次々と枯死、残る1本松は何としても残さねばと、区民総出で保護対策と記念事業が実施されました。

平成13年、磯部保存会の会員として陰の松の草刈作業に参加、見事に甦った遺跡の松が緑の葉を元気に広げている姿を眺め感激しました。

陰の松の保護活動には、樹木の専門知識と技能及び多くの労働と機械操作が必要でした。造園技能士で磯部代理区長

職だった松沢さんに当時のお話を聞きました。

松に胡桃の大木がのしかかり、日が全く入らない有り様に驚いたそうです。松は日当たりが命です。次の日から毎日山に登り、一念発起「昔の陰の松にしたい」と、消毒を試みて五日後の現場には害虫が1匹もいなくなつていたそうです。

また、松の股に枯松葉がたまって、松の炭酸同化作用が出来ない状態であつたことも聞きました。

高い股の所の作業にはロープを張り6メートルの梯子に更に梯子を繋げた高所で曲芸作業を夢中でやった。今思えばぞつとするが当時だから出来た、と笑顔で話されました。

平成17年12月です。大切な遺跡の松は「こぶ病」で枯死。皆が見守る中、切り倒されまなつて山の水源地の影響調査も進められました。

現在、陰の松には代替わりの若松が9本育ち10年目を迎えています。保存会は陰の松復活を目ざして終わりのない活動をしています。無理をしないで、肩肘張らず、楽しく続けよう。

磯部 小出幸子